別記様式第２号（第４条第２項関係）

|  |  |
| --- | --- |
| 課題番号：R1-265 | ※バイオバンク記入欄 |
| 研究課題名：　　　腫瘍内不均一性およびがん進展に寄与する制御因子の解明 |
| **＜1.研究の目的＞**　がん組織には様々な細胞が含まれており、その不均一性が注目されています。不均一性に富むがん組織には、がんの元となるがん幹細胞が存在することが示唆されています。がん組織を構成する不均一な細胞集団を調べることは、がん細胞の増殖や転移、ならびに薬剤抵抗性の仕組みを解明する上で非常に重要であると考えられます。　私達の研究グループではこれまでに、肺がんの培養細胞を用いた実験で細胞の生存と死のバランスを調整する因子となりうる物質Aが発現していることを見出しました。この物質Aは肺がんを始め、膵がん、乳がん、子宮体がん、胃がんなどの培養細胞でも多く発現されていることが他の研究者の論文でも報告されています。しかしながら、手術で摘出された実際のがん組織において物質Aがどのような役割を担うかについては明らかになっていません。そこで、手術で摘出した肺がん組織や膵がん組織を使って、体内でのがん組織を模倣するオルガノイドというミニ臓器を作製して物質Aががん組織の中でどのような働きを持つか調べることを目的とします。 |
| **＜2.研究対象者＞**　西暦 2019 年 12 月～ 2022 年 3 月に当院で手術を受けた患者さん |
| **＜3.研究期間＞**　倫理委員会承認後〜2022年　3月　31日 |
| **＜4.研究の方法＞**　筑波大学バイオバンクセンターに保管されている肺がん、膵臓がんの試料・情報を利用して、組織切片を作製します。組織切片の形態観察および物質Aの免疫組織化学染色を実施して観察による評価を行います。また、血清中に含まれる物質Aを測定して物質Aの発現を確認します。次に組織を使ってオルガノイドを作製して物質Aの働きを調べます。 |
| **＜5.試料・情報の項目＞**「診療で採取した組織、血液をつくばヒト組織バイオバンクセンターで保管することについてのお願い」（2016年9月以降）、及び「筑波大学附属病院で診療を受けられる患者さんへ」（2016年9月以前）により同意の得られた患者試料・情報　　☑組織（対象臓器：肺、膵臓 対象疾患：肺がん、膵臓がん ） ☑血液試料（血清）　□その他試料（　　　）　　　☑臨床情報（年齢、性別、病理診断、感染症の有無、化学療法・放射線治療の有無） |
| **＜6.試料・情報の第三者への提供について＞**　該当なし |
| **＜7.試料・情報の管理について責任を有する人＞**　熊本大学　大学院生命科学研究部　がん生物学分野　山口知也 |
| ＜8.研究機関名及び研究責任者名＞　熊本大学　大学院生命科学研究部　がん生物学分野　山口知也 |
| ＜9.本研究への参加を希望されない場合＞　患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。 |
| ＜10.問い合わせ連絡先＞　筑波大学附属病院：〒305-8576　茨城県つくば市天久保 2-1-1　所属・担当者名：つくばヒト組織バイオバンクセンター　　担当　竹内朋代　電話・FAX：029-853-3715（土日祝日を除く９～17時）　メール：bank298@hosp.tsukuba.ac.jp |